



繊細な人が見たり見続けたりすると、心の中に映像が焼き込まれてしまってトラウマ、ある場合はトラブルになりかねない。「これ、見る覚悟ありますか。気の弱い人は見ないでください。閲覧注意。」確かに、あまりにも悲惨な映像や動画を、特に子供の時に見るのは良くないと思います。脳は一度見たものを記憶するからです。思い出してないだけで、記憶することによって焼き込まれているというんですね。

ヨハネは神々しい御使いを見ていますが、そのビジョン／幻を見る前に何を見たか覚えていますか。9章ですよ。9章で次々ラッパが吹き鳴らされますが、特に**第5のラッパ**が吹き鳴らされた時、アブソス（底知れぬ所／悪霊たちの留置場）の鍵が解除され、そこから悪霊がわんさか出て来た。

その悪霊どもの姿は実に気持ちの悪いものでした。馬の姿ですが顔は人間で、女性の髪の毛をし、口にはライオンの牙があって、サソリのような尾と針を持っている。得体の知れない姿ですね。私たちはそれを文章で読んでるので気持ち悪いと思わないかもしれませんが、ヨハネはそれを見たのです。

そして、**第6のラッパ**が吹き鳴らされると、ユーフラテス川のほとりに繋がれていた4人の墮天使が解放され、おびたしい数の悪霊を配下に置いて全世界に出て行きました。その数2億匹。これもまた馬の姿で顔はライオン。口から火と煙と硫黄が出ており、それによって人類の1/3が殺された。非常におぞましい姿をしている悪霊を2億匹、ヨハネは見たんです。閲覧注意もいいところです。非常にむごたらしいことをする残虐な、気持ちの悪い御使いの姿を2連発でバンバンと見たんです。

その時のヨハネのメンタル、どうなっていたでしょう。おそらく消耗しきっていたのではないかと。あまりにも汚（けが）れているもの、あまりにも不気味な気持ちの悪いもの、グロいものを見せられて、きっと沈んでいたと思いますね。そのヨハネを一瞬で立て直すようなものは、それらの対極にある、キリストの栄光を反映している御使いの姿だったのです。

悪いものを見なければならぬのなら、それと同じだけの時間、良いものも見るようにするべきです。私は朝起きた時、とにかく一番の誘惑はメールのチェックなんです。寝てる間に色んなメールが入っているに違いない。それをまずチェックしたいという誘惑があります。ある時からそれをやめました。それをやると、そのメールの内容が最初に目に飛び込んで来るわけで、私の心の準備が世の中の様々な仕事モードでスタートしてしまう。それは良くないです。

最初に私の目に見せなければならぬものは、聖いもの・正しいもの・健康的なもの・円満なもの・祝福に満ちているもの。すなわち神の言葉である聖書なのです。一日の始めと終わりは神の約束の言葉に戻る。これが、この世の中で正気を保つ秘訣ではないかと思うんですね。

私は大学を卒業してある商社に勤務したのですが、非常に厳しい上司に徹底的に鍛えられました。商社といってもオフィスに行くだけじゃなく、機械の設置などのために現場に直行ということがよくあったんです。非常に過酷な環境の中にもよく入りましたが、とにかく30分前には入っとけと。「相手方がいなくても、とにかく現場には早め早めに入っておけ。もし遅刻して始まったら、一日を『ごめんなさい』から始めることになるぞ。謝罪モードで始まった一日は、一日中ずっと“すみませんでした”の心のモードになってしまって口クなことない！」と教えてくださった。

それは本当に参考になりましたね。

一日を謝罪モードやこの世の対応モードでスタートするのではなく、心を天国に引っ張り上げるようなスタートを切り、一日色んな諸々の事を見て、一日の締めくくりに もう一度みことばを読んで心を静める。これは、クリスチャンのコンディションを整えるのになくてはならない手法だと考えます。これがまず一点。

2)

**6** (あの御使いが) **天とそこにあるもの、地とそこにあるもの、海とそこにあるものを造って、世々限りなく生きておられる方にかけて誓った。「もはや時は残されておらず、**  
**7** **第七の御使いが吹こうとしているラッパの音が響くその日に、神の奥義は、神がご自身のしもべである預言者たちに告げたとおりに実現する。」**

2つのことを言っています。1つ目は、もはや時は残されておらず。

これは、艱難時代のクライマックスまで、もうこれ以上 時の延長はないということなんですね。ここには時の長さをはっきり書いていませんが3年半です。

これが語られているのは、7年間の艱難時代のちょうど中間点に至ろうとしているところ。

**7つのラッパ**までが前半の3年半。**7番目のラッパ**が吹き鳴らされると**7つの鉢**の時代に突入する。つまり、艱難時代のクライマックス・ゴールまでもう3年半しかない。艱難時代は5年・10年・35年のようには、もう延びない。3年半後にキリストが地上再臨なさる。

2つ目は、神の奥義は、神がご自身のしもべである預言者たちに告げたとおりに実現する。

この意味は、聖書に登場した全ての預言者が語った終末預言が、あと3年半で全部実現する。

旧約聖書の中に、終末についてたくさんの預言があります。新約聖書の中にもあるんです。

しかし、その大部分はまだ実現してません。艱難時代後半3年半に、集中豪雨のように実現するのです。その幕開けの前にまず宣言し、それを取り次ぐヨハネに心の準備をさせているんですね。

3)

**9** **私はその御使いのところに行き、「私にその小さな巻物を下さい」と言った。**

**すると彼は言った。「それを取って食べてしまいなさい。それはあなたの腹には苦いが、あなたの口には蜜のように甘い。」**

**10** **そこで、私はその小さな巻物を御使いの手から受け取って食べた。**

**口には蜜のように甘かったが、それを食べてしまうと、私の腹は苦くなった。**

ヨハネは小さな巻物を食べました。口には甘く、腹には苦かった。

この**小さな巻物**は、7つの封印で閉じられていた巻物とは別物です。

これはあっさり黙示録なのであまり詳しい説明はできないのですが、既に旧約聖書に一度登場しています。**ダニエル書 10章 21節**に出て来る巻物で“真理の書”と言われ、終末時代に至る全てが書き記されていました。

**口には蜜のように甘かった。** 甘い。英語では Sweet。皆さんもスイーツが好きな方が多いんじゃないですか。お腹いっぱいでもスイーツは別腹。スーツとお腹に入って行きますね。

甘いには、甘いという意味だけではなく、心地良い・快い・気持ち良いという意味もあるのです。

聖書の預言は、その意味が本当に理解できるようになると、これほど楽しいものはありません。これほど興味深いものはありません。これほどスリリングで面白いものはない。そして、これほど生きる希望を与えてくれるものはないのです。

私は聖書が語っていることが分かり出すようになるまでは、クリスチャンではあったけど実に眠たい本でした。意味が分からなかったからです。意味が分からないものは、やっぱり興味が湧きませんよね。でも、色んな先輩方から聖書解釈の基礎を叩き込まれ、様々な教え・解説を頂くようになって、聖書がどんどん分かって来るようになったんですね。分かり出したら、これほど面白いものないですよ。

そして、聖書の価値観や教えていること、神が人間を・私をどのように見ておられるのかが分かれると、妙な劣等感が吹き飛んでいきました。「私はこれでいいのだ」と腹が据わり、自分の人生に対して非常に希望を持つようになりました。世界が全く新しく見えるようになったんですね。聖書は、理解して咀嚼して呑み込む者にとって口に甘いのです。心地良いものなのです。

しかし、呑み込んでしまうと腹は苦くなった。ヨハネにとって、この終末預言は腹に苦かった。お腹には内臓が収納されています。内臓が痛んだという意味があるのですが、この表現を理解するためにはヘブル的文化・表現を学ぶ必要があります。

**詩篇 7 篇 9 節**（新改訳聖書第 3 版）

**どうか、悪者の悪があとを絶ち、あなたが正しい者を堅く立てられますように。  
正しい神は、心と思いを調べられます。**

心と思いを調べられます。心はヘブライ語でレーブ（心臓）。思いはヘブライ語でキルヤー（腎臓）。すなわち“心臓と腎臓を調べられます”。

古代ヘブル人たちは、「心は心臓に宿っている。思い・情緒は腎臓が担っている」と考えたようです。目に見えない心理的・情動的な部分と内臓を一体のものとして考えていたのですね。

日本語でも、あまりにも酷く極まった悲しみ・苦しみを“断腸の思い／腸が千切れるような思い”と言うじゃないですか。“心が張り裂けそうだ”を、自分の内臓が千切れると表現しているのですね。

同じようなことがヘブル人の中にもあったのです。そんな文化的背景があるということを考えると、口には蜜のように甘かったが、それを食べてしまうと、私の腹は苦くなったというのが読めて来ます。つまり、理解するという心地良さは別に、その理解した内容が終末預言だったため、悔い改めない人間の上に降りかかる災難・裁きを考えて、ヨハネの心は張り裂けそうになったのです。

終末預言を知ることは、神の人類救済のマスタープランについて目が開かれているということ、歴史の意味が見えて来るということ。それは本当に興味深いことです。

しかし同時に、どうしても反逆をやめようとしないう人間には恐ろしい結末が待っている。

それを理解した時、ヨハネの心は苦しくてたまらなくなったということを行っているのですね。

聖書預言を学ぶ楽しさと苦しさ。この2つの相対するものがヨハネの中に同居しているのです。この矛盾こそが、クリスチャンに必要な感覚だと思います。知的理解で興奮して終わるのではなく、これが本当に起こることを考えた時、創造主に立ち返っていない方々のために祈る思いが湧いて来るのではありませんか。そして、この真実について、宣べ伝えざるを得なくなってしまうのではないのでしょうか。

この2つを感覚として同時に持った上で、**11** **すると私はこう告げられた。「あなたはもう一度、多くの民族、国民（くにたみ）、言語、王たちについて預言しなければならない。」**

預言するに者には資格が必要です。それは神のことばについての深い理解と、それを聞く者たちに対する深い同情です。この2つを持って、これからも『ごうちゃんねる』を続けて行きたいと思いますので、よろしければ続きをお付き合いください。

もしよろしければ、チャンネル登録もお願いします。  
ではまた このチャンネルでお目にかかりましょう。さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。